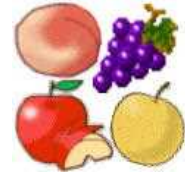




平成28年度 果樹情報 第11号

(平成28年8月19日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (8月前半：果樹研究所)

平均気温は、平年と比較すると1半旬が26.8℃で0.9℃高く、2半旬が26.8℃で1.1℃高く、3半旬が23.9℃で1.6℃低く経過しました。

この期間の降水量は77.5mmで平年の111%でした。

2 生育概況

(1) 果実肥大 (8月15日現在)

もも：暦日比較では、「ゆうぞら」は縦径119%、側径126%と平年より大きく、満開後日数による比較でも平年より大きい状況です。

なし：暦日比較では、「幸水」は縦径113%、横径112%と平年より大きく、「豊水」は縦径112%、横径116%と平年より大きい状況です。満開後日数による比較でも、「幸水」「豊水」ともに平年より大きい状況です。

りんご：暦日比較では、「つがる」は縦径101%、横径105%で平年並、「ふじ」は縦径107%、横径111%で平年より大きい状況です。満開後日数による比較でも、「つがる」は平年並で、「ふじ」は平年より大きい状況です。

表1 主要品種の果実肥大(暦日比較 果樹研究所8月15日調査)

果実肥大	もも		なし				りんご			
	ゆうぞら		幸水		豊水		つがる		ふじ	
	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	77.6	85.5	71.4	88.2	71.7	83.3	71.9	84.9	69.5	79.7
平年比(%)	119	126	113	112	112	116	101	105	107	111

(2) もも

ア 中生～晩生品種の収穫期と果実品質

「まどか」の収穫盛は8月5日で平年より9日早まりました。果実重は377gと平年より大きく、RM示度(糖度)は14.6と平年より高くなっています。

「川中島白桃」の収穫始は8月15日で平年より9日早く、果実は大きめで、糖度は高い傾向にあります。

表2 ももの主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			RM示度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/30	7/ 8	7/ 2	7/ 4	7/11	7/ 4	7/ 7	7/15	7/ 6	263	261	289	10.0	11.3	11.4
日川白鳳	7/ 7	7/16	7/ 6	7/11	7/19	7/ 9	7/15	7/22	7/13	248	230	257	10.6	10.7	11.6
暁星	7/15	7/23	7/13	7/18	7/27	7/16	7/22	7/31	7/19	214	215	235	12.6	12.7	14.5
あかつき	7/21	8/ 2	7/21	7/24	8/ 5	7/24	7/28	8/10	7/30	257	265	270	13.0	12.6	13.0
まどか	8/ 2	8/10	8/ 3	8/ 5	8/14	8/ 6	8/10	8/19	8/10	377	333	357	14.6	13.2	14.3
川中島白桃	8/15	8/24	8/13	未	8/27	8/16	未	8/31	8/20	未	333	385	未	12.8	13.3
ゆうぞら	未	8/31	8/18	未	9/ 4	8/21	未	9/ 9	8/27	未	324	346	未	12.7	12.9

※ 未は未確定

(3) なし

ア 「幸水」の成熟経過

満開後115日（8月12日）における成熟調査の結果は、果実硬度が7.5ポンドと平年値を上回っており、RM示度11.8、果皮中クロロフィル含量 $10.4 \mu\text{g}/\text{cm}^2$ とともにほぼ平年並です。

果皮中クロロフィル含量の低下に対する果実硬度は、平年値を上回っており、現時点では果肉先熟の状況にはありません。

表3 「幸水」の成熟経過

生育日数	硬度(lbs.)			地色			RM示度			果皮中クロロフィル含量		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
115	7.5	6.6	7.4	1.6	1.8	1.7	11.8	11.5	11.0	10.4	10.7	11.4
平年値：1991～2015年、果皮中クロロフィル含量： $\mu\text{g}/\text{cm}^2$												

(4) りんご

ア 「つがる」の成熟状況

満開後111日（8月12日）における成熟状況は、硬度12.9ポンド、デンプン指数2.0、RM示度11.0、リンゴ酸0.26%です。生育日数比較では、果肉硬度は平年よりやや低めに経過してきましたが、直近の調査では平年並となっています。また、デンプンの消失は遅く、アントシアニン含量は低く、クロロフィル含量は多い状況です。

(5) ぶどう

ア 「あづましずく」の収穫期と果実品質

長梢栽培における収穫始は、8月4日で平年より9日早く、短梢栽培における収穫始は、8月8日で平年より8日早まりました。

8月8日収穫の長梢栽培の果実品質は、果皮色（カラーチャート値）が9.2、RM示度が18.2、酒石酸が0.56%、糖酸比が32.1でした。

イ 「巨峰」（無核栽培）の成熟状況

8月15日（満開後74日）現在の「巨峰」（無核栽培）の成熟状況は、RM示度が16.1、果皮色が8.8、酒石酸含量が0.79%、糖酸比が20.4となっています。RM示度の上昇及び酒石酸の低下は平年より早く、昨年よりやや遅くなっています。果皮色のカラーチャート指数は、平年よりわずかに高く、昨年と同程度です。

3 栽培上の留意点

(1) もも

ア 晩生種の収穫前管理と収穫

中生種では収穫期が平年より10日程度早く経過していること、また核割れ等による軟質果やミツ症の発生が見られていることから、晩生種についても収穫が遅れないように注意しましょう。また、核割れや収穫期の降雨により、果肉軟化が助長されるおそれがあるため、果実成熟のばらつきに留意し適期収穫に努めましょう。まもなく収穫期に入る「ゆうぞら」等の晩生種については、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置等収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

また、有袋栽培では、今後曇天の日が多いと除袋の遅れにより着色不良となることがあるため、着色管理作業も計画的に行いましょう。

(2) なし

ア 「幸水」収穫の留意点

収穫基準は、全農作成「幸水」用カラーチャートの1.5～2.0を目安にし、適期収穫に努めましょう。なお、収穫時の果実温度が高いと果肉軟化が促進され、芯腐れ果の発生につながりやすいので、気温の低いうちに収穫し、収穫後は涼しい場所に保管するようにしま

しょう。

「幸水」の品種特性として、収穫盛期以降に降雨などにより急激に土壌水分が増加した後は果皮クロロフィルや果肉硬度の低下が急激に進むので、収穫が遅れないように注意しましょう。

イ 「豊水」の修正摘果

「豊水」は満開後120日頃を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症の発生を助長するので、着果量を「幸水」並（10 a 当たり10,000果）とし、適正着果に努めましょう。

(3) りんご

ア 早生種の収穫前管理

本年は、気温の高い日が続いたことから日焼け果の発生が確認されており、葉摘みは日焼け果の発生状態を確認しながら徐々に行いましょう。

イ 早生種の収穫

「つがる」の成熟は平年より早まり、高温期での収穫となります。降雨等の気象条件によっては硬度の低下など果実品質が急激に変化する場合があるので収穫が遅れないように注意しましょう。

(4) ぶどう

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なってくるので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫方法

収穫はなるべく果実温度の低い早朝に行いましょう。また、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が低下するため、収穫時及び収穫後の調整を行う際には穂軸を持って扱うように心がけましょう。さらに、脱粒を防ぐために収穫後の果房の取り扱いは丁寧に行い、コンテナ内に果房を重ねたり運搬の際に揺れてこすれたりしないように注意しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご褐斑病、炭疽病

これらの病害の発生が懸念される園地では、これらに効果がある薬剤を十分量散布しましょう。なお、炭疽病の発生を抑制するために、園地周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物を除去しましょう。

イ もも灰星病

降雨により灰星病の感染が助長されるため、収穫まで防除を徹底しましょう。薬剤は灰星病防除剤（県病虫害防除指針参照）のいずれかを、除袋後の間隔が空きすぎないように注意して使用しましょう。

(2) 虫 害

ア モモノゴマダラノメイガ

中生種のももで被害が見られた園では、晩生種に対する防除を行いましょう。本種は柿や栗などにも寄生するため、被害が多いもも園の近隣に柿や栗がある場合は、防除を行うなどの対策をしましょう。

イ モモハモグリガ

モモハモグリガ第5世代成虫の発生盛期は8月6半旬頃であり、第6世代の防除適期は

9月1半旬頃と推定されます。本種が多発している園では収穫後の防除も徹底しましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第3世代成虫の発生盛期は8月3半旬頃であり、第4世代の防除適期は8月5半旬頃であると推定されます。本種の第3世代以降はなし果実への寄生が増加するため、例年なしでの果実被害が多く、かつ近隣のもも園で芯折れが多い地域では防除を徹底しましょう。

エ カイガラムシ類

例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上～中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃です。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

オ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行きましょう。

表4 主要チョウ目害虫の防除時期の推定（果樹研究所 平成28年8月15日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第5世代 成虫盛期	第6世代 防除適期	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月29日	9月1日	8月14日	8月21日
平年並	8月29日	9月2日	8月14日	8月21日
2℃低い	9月1日	9月6日	8月15日	8月23日

注) 演算方法は三角法による。

起算日：モモハモグリガ 8月10日、ナシヒメシンクイ 7月19日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>